



ぎゃ～なもん通信 vol.2

香美町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
令和2年12月発行

「香美町ぎゃ～なもんプロジェクト」キックオフ研修会を開催しました！



令和2年10月9日（金）、13日（火）、25日（日）Studio-Lの渡辺氏を講師に迎え、「香美町ぎゃ～なもんプロジェクト」キックオフ研修会を開催しました。

9日は初めてのZOOMを使用してのオンライン開催、13日、25日は村岡老人福祉センターで実施しました。

3回の説明会に22名の参加がありました。

まず、事務局から改めて簡単に事業説明をした後、講師の渡辺氏から事例紹介をしていただき、グループワークで感想や意見を出し合い、それに対して渡辺氏からのアドバイスなどをいただきました。

生活やニーズが多様化し、地域の特徴も様々な香美町。行政や社協任せでは対応しきれない…だからこそ、住民一人一人が地域のことを考え、行動していく必要がある！

それぞれが思う「やりたいこと」「できること」「求められていること」を話し合っ、3つが重なる「企画」をみんなで作っていくための、話し合いの場、それが「ぎゃ～なもんプロジェクト」です。

事務局（社協）は各地の事例や地域の情報を集めたり、行政や色々な団体・機関との橋渡しをしたりと、みなさんが企画を考え、実行するためのサポートをします。

● パークレンジャー養成講座（2009年～）



● 活動例：自然ふれあいチーム



ササユリの保護育成



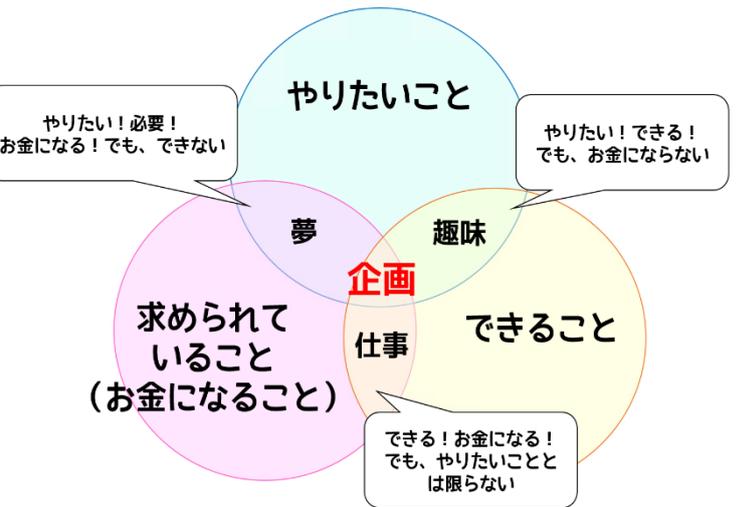
草木の調査



野鳥観察



手づくり窯でピザづくり体験



渡辺さんには、大阪の泉佐野丘陵緑地の公園整備事業についてご紹介いただきました。

行政が管理する広大な園地を行政主導ではなく、参加されている「パークレンジャー」というボランティアたちが、話し合いながら自分たちで整備計画を立て、実際に整備し、自分たちのやりたいことに沿ったグループを立ち上げて、住民が参加できるイベントを企画し、10年に渡って公園整備を続けて来られました。そして、開園後も作り続ける公園として、今後もパークレンジャーは活動を継続されます。

渡辺さんは、整備に必要な知識や技術を学ぶための講座を提案したり、講師さんを紹介したり、行政とパークレンジャーの仲介役をしたりといったサポートをされていました。

これは、ぎゃ～なもんプロジェクトに於いての、住民のみなさんと事務局の役割と、非常に近いところがあります。また、「やりたいこと」から話合っ、グループを作っていく、というところも共通点で、わかりやすく興味深い事例でした。

グループワーク&質問コーナー

3回に分けて開催した研修会では、それぞれの回で様々なご意見やご質問をいただきました。紙面の都合上すべてを掲載できませんが、要約・抜粋してご紹介します。

10月9日（金）

- ・既存のものに、みんなのアイデアをプラスして新しいものを作っていきのめいい。
 - ・今やっている事で手一杯。新しい事を増やすと、中途半端になる。地区の人、沢山の人が関わってもらえる事、継続、維持出来る事が必要。
 - ・やりたい事はもう自分でやっているの、町内で新しいチャレンジをしたいけど、自分だけでは少し難しいと思っている人のサポートに回りたい。
-
- ・地域活性と言うが、香美町に人が来る、地元の物が知られているのが地域活性なのか？地域活性とはどういうものなのか。
 - ・いろんな人が、交流会、ワークショップを開催してきっかけにしたらいい。ぎゃ～なもんプロジェクトの皆で話し合うのも1つ。若い世代20代～30代～高校生対象の話が出来た方が良さ。
-
- ・香美町が、若い人の「こんな町にしてみたい」という意見が入り込んだ計画を立てることに繋がったらいい。
 - ・若い人たちを巻き込んでいけるといい。村岡高校生も地域について勉強しているし、地域と関わっていく中で地域愛が強くなっていく。
 - ・学校に関わってもらおうと思ったら、地域から学校に働きかける姿勢が必要。
 - ・物事が進まない原因は、プライドと年齢の問題だ。「良いものは良い」ことを上の年代が受け入れ、下の人も伝えることが必要。
 - ・全員の意見を取り入れようとすると、中途半端なものになってしまう。誰かが責任を持って「今回はこうします」と決定していく事も必要。

渡辺さんから

行政は、住民さんとコミュニケーションをとることが苦手な場合も多い。社協は行政と距離の近いところで仕事をしているので、住民さんと行政をうまく橋渡しするようなこともできるのではないかな。

そういった、人と人や、関係機関などの間に入って調整を行うのも、事務局としての社協の役割になってくると思う。ぜひ、どんどん意見・アイデアを出してもらいたい。



10月13日(火)



ボランティアで登山道の整備をするグループ「蘇武岳ファンクラブ」
こういう自主活動をされている団体、実は
たくさんあるんですよ。

渡辺さんから

各団体には、自分たちの得意な事、経験値があるが、それがどのように活かされるかが分かってこない、なかなかつながれない。一つのイベントを分解して、どの部分でどの団体の特技や役割が発揮されるか、且つメリットがあるかを考えながら、うまく紐解いていく必要がある。

まずは地域に入り、いろんな団体や個人を訪問し、話を聞かせてもらって、情報収集したりコミュニケーションを取っていき、常に頭の中で、その団体や個人の『できる事』を考えるといい。

質問) たくさんの人に集まってもらえる チラシの作り方を教えてください。

何を誰に伝えたいか、という事が大事。
伝えたい相手の年代を具体的に細かく考えてみて、身の回りに近い人物がいれば、その人に参加してもらうには、と考えて作るのがいいと思います。そして年代に応じて、SNSで申し込みができるようにしたり、QRコードを付けたり、逆にチラシで申し込む方が良かったりと、誰に伝えたいかを明確にしてから作るのが良い。

地域の中で活動したいとか何かを作っていく時、そういう想いを持っている人たちだけで動くのではなく、地域の人たちにもその活動を知ってもらったり、巻き込んで行かないと長続きしない。どの地域の人も、自分の地域の事以外の事を手伝える余力がないと思う。そこを誰がどうつなげていくか、ということ。

一番の問題は人口が少ない事。地域のために活動されている人たちが、他の色々な活動の場に重複して借り出され、忙しくされている。そうすると自分たちが本当にやりたい事ができなくなってしまう。そうではなくて、その人たちがやりたい事にみんながどんどん入っていくような仕組みになるといいと思う。

『ぎゃ〜なもんプロジェクト』と言っても、色々な活動をされているみなさんにとっては、活動のひとつと捉えられて、また活動がひとつ増えてしまうという感じになると思う。そうではなく、色々な活動やイベントを繋げていくことを『ぎゃ〜なもんプロジェクト』がした方がいいという事ですよね。



10月25日(日)

・射添地区では現在地域コミュニティづくりを進めているが、地域住民が中心となってやっているので、ぎゃ〜なもんプロジェクトと同じだと感じた。今後、協力し合えたら良いと思う。



・村岡高校は授業で地域づくり系のことをしているが、生徒が授業以外でもっと地域と関わりたい、となった時に学校の枠を出て、受け入れてくれる場所があると良いと思う。



・プロジェクトに参加したメンバーだけでなくアンケートをとって、広くアイデアを募集してみてもどうか。
・何をやるにしても、やりたい人がやりたいことをするのが大事。集まったメンバーの中で、まずはやりたいことを出していく方が、次の行動につながりやすい。

渡辺さんから

「地域のために役に立つから、やらなきゃ」という意識というよりは、それが自分たちのやりたいことでもある、ということが大事だと思います。

極端な話、「自分たちがやりたくなくて、地域の役に立つこと」はやらなくていい。自分たちのやりたいことで、香美町のフィールドで行うことであれば、ある程度香美町の役に立つことだと思うので、まずは自分たちのやりたいことを出すことが大事だと思います。



今回の研修会では、「ぎゃ〜なもんプロジェクト」はどんなものなのか、その中で事務局としての社協の役割は何なのか、ということをお伝えすることを目的としていました。

ぎゃ〜なもんプロジェクトは、住民のみなさんが地域の中で「やりたいこと」「こうなったらいいな」ということを話し合い、実現に向けてアイデアを出し合うための場。

事務局としての社協は、事例の紹介や講師の紹介、行政や関係団体などのつなぎ役でサポートをする。ということを目指していますが、事務局としての力不足、甘さを痛感した3日間でもありました。

もっと、地域について深く知りたいと思いますし、みなさんのされている活動や想いを、もっと教えていただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

また、ご意見やアイデアのある方は、ぜひ社協までご連絡いただけたらと思います。

